

2010 活動報告 特集1

1 はじめに

内閣府沖縄担当部局では、今年も8月に、日本とアジア諸国などの中高生が、沖縄の地で共同生活をする人材育成プログラム「アジア青年の家2010」を実施しました。

このプログラムは、将来を担う青年が、世界各地の人々が直面する地球規模の問題と、その克服に貢献する科学技術の素晴らしさに触れるとともに、英語を共通言語としてディスカッションを行い、多様性を受け入れる素地を養い、創造力あふれる人材を育成することを目的としています。

今年も、沖縄県から16名、沖縄県以外の都府県から32名、アジア諸国など15か国から32名、合計80名の中高生が参加しました。



ハーリー競漕

2 プログラムについて

プログラムは、身近な環境問題である『水問題』を題材に、『考えよう！生命(いのち)を支える水 (Get real about Water: Initiat spensable to life.)』をテーマに、8月6日から23日までの約3週間の日程を3つのセッションに分け、沖縄の豊かな自然や県内各地の施設などを舞台に実施されました。

3 主な活動について

○プレセッション「多様な文化体験を通じた絆づくり」(8月6日～9日)

このセッションでは、参加者同士の結束を強めることを目的に、ハーリー競漕や琉球空手・三線・エイサーなど沖縄の伝統文化を体験しました。

また、昨年の参加青年代表が、『青年リーダー』としてプログラムに参加し、自身の経験や経験がその後の学生生活に与えた影響などを参加青年に伝えるなど、交流を深めました。

なお、第1セッションの準備のため、桜井国俊前沖縄大学学長から、『水環境問題の基礎問題』についての講義を受けました。

○開会式(8月10日)

万国津梁館名護市で開かれた開会式で、大城珠里亜さん(沖縄県)は、参加青年を代表して、『このプログラムを通じて水問題について学び、何ができるかを共に考えたい。お互いの文化や歴史についても理解を深めたい。』と英語であいさつをしました。

また、千葉工業大学惑星探索研究センター所長の松井孝典さんから、『生命や文明を育む惑星としての地球』と題した基調講演を聞きました。

○第1セッション「水問題の現状と課題」(8月11日～16日)

活動の拠点を渡嘉敷島に移し、シュノーケリングなどの海洋体験を楽しむ一方、海浜の清掃活動を通じて漂着ゴミの実態を学び、世界が直面している水問題の研究を進めている神馬征峰さんや小嶋公史さんの講義を受けました。

また、国際機関で活躍している池上清子さんや長瀬慎治さんからは、『水分野の国際協力』についての講義があり、参加青年が自らの将来を考えるきっかけにもなりました。

更に、参加青年の出身国が抱える水問題を題材に、発表会を行いました。



グループディスカッション

「アジア青年の家」



民泊体験

○オープンセミナー「新しい知」に触れ、未来の可能性を探る
（8月16日）
プラネタリウムクリエーターの大平貴之さんから、プラネタリウム「メガスター」の開発に至った経緯などのお話を聞きました。
また、宇宙飛行士の毛利衛さんによる出前講座では、南極の昭和基地とリアルタイムで交信をするというユニークな体験をしました。

○伊江村での民泊体験（8月17日～18日）
伊江村の御家庭に宿泊し、沖縄の離島の日常生活を体験しました。

○閉会式（8月23日）
沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）で開かれた閉会式で、参加青年全員でとりまとめた『水環境ビジョン2030』を発表しました。
その後、アジア青年の家構想推進に係る有識者会議座長の黒川清さん（政策研究大学院大学教授）から、講評がありました。

○第2セッション「水問題の解決策を考える」（8月19日～22日）
閉会式まで残りわずかとなったこのセッションでは、水問題を解決するため、雨水利用の研究で有名な村瀬誠さんや開発発展途上地域における水と農林水産業の関係を研究している小山修さんの講義、沖縄科学技術研究基盤整備機構を始めとする県内学術機関の出前講座を受けました。
また、水問題の解決に貢献する企業の取組として、海水から飲み水を作る技術や、環境や人体に無害な水質浄化剤を用いて飲み水を作る技術を学びました。
なお、学習サポーター役のプログラマコーディネーター、ファシリテーターやチューターの支援により、多くのグループディスカッションを重ね、プログラムでの体験や学習成果を『水環境ビジョン2030』にとりまとめました。



フェアウェルパーティー



『水環境ビジョン2030』の発表

○事後報告会（内閣府副大臣への表敬訪問）（8月24日）
参加青年を代表して、仲間美稀さん（沖縄県）をはじめ、国内外の参加青年7名が内閣府庁舎を訪れ、大島敦内閣府副大臣を表敬しました。
仲間美稀さんは、「プログラムは終わったが、それぞれの夢をかなえるためのスタートだと思ふ。いつか夢を叶えて、またみんなに会いたい。参加して本当に良かった。」と今後に向けた抱負と感謝の言葉を英語でスピーチしました。

4 終わりに

参加青年には、このプログラムで得た幅広い視野や国境を越えた絆を大切に、将来、様々な形で新しい価値を生み出し、活躍されることを期待しています。
このプログラムを通じて、様々な形で御協力いただいた「アジア青年の家」沖縄推進協議会、沖縄大学を始めとする関係機関、関係者の皆様に、この紙面を借りて、心より御礼申し上げます。

※「アジア青年の家」のスケジュールや参加青年による日々の活動日誌「ハイスイ日誌」などを紹介したホームページを公開しています。

<http://ayepo.go.jp>